

広島市植物公園 見どころ案内

2018年9月22日
通巻第387号

9/8 (土) ~9/23 (日) の毎週末 夜間開園

タヌキマメ (マメ科)

青紫色の花がタヌキの顔に、褐色の毛に覆われた萼はタヌキの尻尾に見えることから“狸豆”。花は午後に関き、夕方にはしぼみます。目線を上げると、ネコノチチ(クロウメドキ科)の果実が色づいています。

ヒガンバナ

(ヒガンバナ科)
進化園のヒガンバナは週の前半までが見頃、日本庭園の前は後半が見頃です。彼岸を代表する植物です。有毒なので食べてはいけません。

展示会のご案内

- ◇ 展示温室 (9/8~9/27)
- 薬用植物展
- ◇ 展示資料館 (9/22~12/25)
- 特別企画展「バオバブ展」

スイフヨウ (アオイ科)

スイフヨウはフヨウの八重咲き品種です。朝の咲き始めは白色で、時間が経つにつれてピンク色に変色します。その様子を酔っ払いに例えて、「酔芙蓉」という名前がついています。

ハブソウ (マメ科)

お茶として有名ですが、収量の多いエビスグサをはぶ茶に用いることが多いようです。両者は葉の形で区別できます。

ニシキハギ (マメ科)

ビッチュウヤマハギとも呼ばれ、葉の表面全体に微細な毛が生えていることが特徴です。ハギ園では13種類のハギと秋の七草をお楽しみいただけます。

ジュウガツザクラ

(バラ科)
秋から春にかけて咲く八重咲きの桜です。マメザクラとエドヒガンの種間雑種と考えられています。江戸時代から栽培されている歴史の古い栽培品種です。

アオハダ (モチノキ科)

北海道~九州に分布する雌雄別株の落葉高木。県内では、ブナ帯でよく見られ、沿岸部での自生は稀です。公園などでよく見られるクロガネモチと同じ仲間です。近年では、庭木として用いられることもありますが、大きくなるので注意が必要です。また、果実はクマの好物です。

熱帯
スイレン
温室
休館中

センナリバナ (バショウ科)

果実が1,000個もなることから千成バナナ。親指ほどの大きさの小さな実が付きます。近くには野生バナナの実も着いています。

ラッセリア (オオバコ科)

ハナチョウジとも呼ばれるメキシコ原産の常緑低木。トクサのような細い葉をつけます。花の形が“丁”の時に似ていることから“花丁字”、暖地では露地植えで冬越しします。気温が10℃以上ある地域では、通年開花します。

ハウキグサ (ヒユ科)

緑色のボールのようですが、秋が深まるにつれて赤く紅葉します。和名のハウキグサは、昔この茎を乾燥させてほうきを作ったことにちなみます。別名ハウキギ、コキアともいいます。

